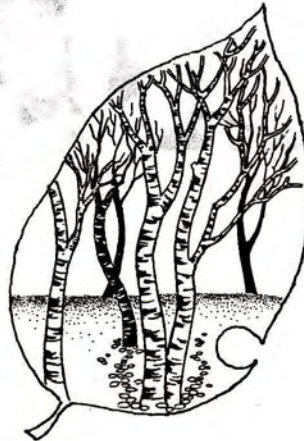


目 次

「西条オリエンテーション・ルポ」	編 集 部	1
酒と徹夜と男と女～西条の24時間～		
総科新歓行事に関するアンケート結果	編 集 部	3
<座談会>		
「大学における学問研究」について	編 集 部	4
"こうもり男にバレンシア娘"	55年度生意識調査	編 集 部 12
§ テニス・ブーム §		
(M) テニスは楽し	陣 崎 克 博	16
(M) あおぞらのなかま	森 利 一	17
シリーズ・学問のススメ		
<その11>量子力学の学習について	松 田 正 典	18
総合科学部同窓会の設立について	重 中 義 信	19
<シリーズ・その4>		
大学研究所めぐり	山 下 彰 一	20
学部の記録		21



新入生歓迎行事『西条オリエンテーション・ルポ』

— 酒と徹夜と男と女 —

西条の24時間

編 集 部

5月24・25日の2日間、恒例・総科新入生歓迎行事が西条共同研修センターで行われました。五月病もなんのその。希望に胸ふくらむ新入生たちは、24日午後1時、広大を出発。『広大総合化学部』（これはバス会社の間違いでした）と札の下がったバスにゆられること1時間半。途中、恐いダンプの運ちゃんにからかわれながらも、午後2時30分、無事西条へ到着。そこは、私たちの想像をはるかに上まわるド田舎でした。思わず故郷を思い出して涙ぐむ人も…。

センターの係員さんの諸注意のあと、学会のため参加なさらなかつた式部学部長のかわりに、松尾先生の御挨拶。「五月病を吹き飛ばし、今後の大学生活を有意義におくるため、また気心の知れた友をつくるために、この研修を充実したものにして下さい。」とお言葉でした。そのあと、三寺先生が、『人間の環境』と題してスライドを交えながら講演



され、なかなかよかったです。このころになると、もう空腹とねむ気をかくしきれない人が、かなりいました。そして、待ちに待った夕食の時間。勇んで食堂にかけこみましたが、そこには毎日、学食の入り口で見られるあの光景と、B定顔負けのメニューが待っていたのでした。それでも食事代がうくことを思い出し、気を持ち直して、窓の外を走る新幹線をながめながら食事を終え、入浴をすませるとチューター別行事が始まります。各チューターごとに部屋に集まり、まず自己紹介。自分のチューター

にこんな人もいたのか、と驚いたりして…。そのあと志望コースなどの話をして、いよいよ自由時間となります。そのまま、同じチューターの人とゲームを始める人もあれば、外へ飛び出してゆく人もあり、先生方がやすらかなねむりにつかれるころ、私たちの時間が始まるのです。センターには、わざわざ私たちのために合宿所という所がつくってあります。先生方のねむりを妨げないためにも実によい所です。ここに集まった約半数の人の中で、様々な特技が披露され、数々のスターが生まれ、熱気のため酔いつぶれる人も出たくらいです。また、露にぬれた草に腰をおろし、夜空をあおいで、カエルの大合唱に負けじと歌を歌ったり、暗闇の中、四百メートルランニング。研修室の方では、淡々とゲームを続ける人もいれば、ゲームをやめて話しこむ人も。そこへ、合宿所から帰ってきた人も加わって、人生論、恋愛論から、化粧の話やバイトの話まで、話はつきません。夜というのは不思議なもので、普段はできない話もついついできてしまうものです。友達の意外な面を見つけたり、ふっと、優しさに包まれたり、互いに少しずつ心を開きあえたのではないのでしょうか。徹夜した人、明け方までカードに熱中した人もい



ましたが、各人様々な一夜を過ごして、西条の夜も白み始めるころ、ポチポチと雨が降り始めました。あたり一面、白いもやがたちこめる中、鳥の声だけが聞こえる、静かな西条の朝でした。

6時30分の予定起床時間もなんのその、昨夜の

夜ふかし、あるいは徹夜がたたってか朝食の少し前になって、やっと洗面を始める始末でした。廊下で出会う顔は、どれも「ウー！眠い。」といった感じで、大学生の朝の弱さを改めて痛感しました。

さて、洗面していると、先生方から「昨夜はアルコール類はどうだったの？遅くまで下のグラウンドから歌う声がしていたみたいだけど…。」との御質問。当然、先生方は知っているらしいけれど、まともにも答えるのも具合が悪いかなと思って、「えっ！アルコール？まあ…ハハハ…」とお茶をにごす次第でした。

7時30分から朝食。ごはん、みそ汁、つけもの。あのたくあんは迫力満点だったな。

約1時間半の自由時間のあと、文系コース、理系コース別に分かれてのガイダンスにはいりました。



§ 文系コースのガイダンス

文系コース志望の学生と、6名の文系の先生が集まって、ガイダンスが始まりました。まずは、先生方の自己紹介。次に、戸田先生より地域文化コースについての説明があり、続いて、志村先生より社会文化コースについての説明。そのあと、学生に質問が求められましたが、昨夜の疲れの色が非常に濃く、あまり質問は出ませんでした。個人的に先生の所へ行って相談する人はありました。

ガイダンスがすむと、理系の人と入りかわって、映画『尾瀬』を見ました。ここでも睡魔からのがれることはできませんでした。船をこぐ人、あきらめてうつぶせになる人、となりの人によりかかる人、それをサツとかわす人、授業中ならしてあるのか、フラッとみせず目だけつぶれる人。起きていた人にとっては、映画に優るとも劣らぬ、おもしろい光景だったでしょう。

§ 理系コースのガイダンス

理系コースのガイダンスは、『尾瀬』の映画のあと、武森先生、樹下先生、田代先生の三先生

を中心に第六・七集会室で行なわれました。最初に、武森先生から環境科学コース、樹下先生から情報行動コースの説明があったあと、質問にはいりました。まず、情報の一群と環境の一群の違い、情報の二群と環境の三群の違いについての質問が出ましたが、教職に関する点などで多少の有利不利があるかもしれないけれど、講義によっては重なって受講する場合もあるということで、結局は、それよりもコース、群の枠を越えて広い分野にわたって研究するのが総合科学として大切なのではないか、ということでした。また、教職員免許については、「四年になった時、単位が足りなくて、教育実習にゆけないということも起こりうるので、教職を志す者は、二、三年のうちに計画的に必要な単位を取っておくように」ということでした。一年間のコース決定の選択期間が短かすぎるのではないかと問題も出ましたが、これは長いとも短いともつかず、結局、結論は出ませんでした。このガイダンス(途中からは懇談会という感じでしたが)で、一つ驚いたことは、自らの希望するコースを入学前、あるいは入学直後から決めている人が非常に多いということでした。それに反して、入試の前までは総科の内容については、知らなくて、募集要項で知ったという人が大半でした。情報が少なかったという例で、武森先生から、螢雪時代では、文系学部として紹介してあるという話もありました。

§ ガイダンス後

文系理系別のガイダンスの後は、11時30分から少し早めの昼食。昼食後に予定されていたソフトボール大会は雨天のため中止。前夜、夜あかしをした人はかえってホットしたことでしょう。

退室前に部屋のそうじをして1時30分頃2台のバスに分乗して一路広大へ。なお、当日5時30分から計画された打ち上げコンパは皆の疲労のため、二日後の火曜日にもちこされましたが、参加者はごく少数(約25名)でした。

二日の西条研修で、普段できない話を友人たちとしたことで、せめて総科内だけでも、友情が深まれば幸いだと思います。

新歓 — 行事に関するアンケート — 結果

編 集 部

去る5月24・25日に行なわれた総科新歓行事におけるチューター別行事ならびに研修懇談会、および他の企画について、良かった点、悪かった点、その他の意見のアンケートを取った。これは、学活委員会がとり、学生側でまとめたもので、次回からの参考にするためにも、大学側・学生側とも大いに検討反省する必要があると思う。

まず、初日の夜のチューター別行事については、「現行のまままでよい。よかった」「チューターとひざを交えた話し合いがもてて大へん親睦を深められた」「同じチューターの人と知り合いになれてよかった」「いろいろと細かい点がよく理解できた」「学生と教官のつながりを再認識した」以上のような意見が圧倒的に多く、チューター内での“親睦”という目的においてかなり充実していたようである。その点、「自分の志望コースと違う先生だったので質問にはつきりとは答えてもらえなかった」「テーマを決めて話が進みやすいようにしたらいい」などの問題点は仕方がないと思われる。

次に、2日目の午前中の文一理系別研修懇談会であるが、これはチューター別行事と違い、ごく真直面的な各志望コースの認識を目的とされて行なわれたものである。しかし結果を見ると、「コース決定についての不安がとりのぞかれた」という意見が2・3あるだけで、「もっと少人数でやったほうがいい」「コース別にすればいい」「文一理系共通でやってほしかった」「コース別の詳しい資料をもとに話し合いをしたらよい」「もっと多くの教授にもっと具体的なことを話してほしかった」「固い話に終始していたようだ」といったように各自様々な意見があったが、もっと少人数化することについては意見が一致していたようである。また学生側の反省点として

「生徒の方も積極的に発言すべきだった」「質問の準備等、事前に各自考えておくべきだった」「肝心の研修なのに睡眠不足でねむたかった」さらに奇抜な意見ではあるが「タテのつながりという意味も含めて、上級生も少し参考にコース決定の助言などをやってくれたらよかった」などがあげられる。

その他の企画として、三寺教授による『人間の環境』と題する講演、映画『尾瀬』があったが、緑の山間西条へやってきてまで椅子にすわらされていたせいか「時間が長すぎるのではないか」「講演はうしろにいと聞こえにくいし、スライドもほとんど見えない」「『尾瀬』の映画はつまらなかった」という意見が数少ない好評を圧倒してしまっている。限られた研修の時間の使い方を検討してほしいという意見も多くみられた。

また、予定されていて雨のために中止になったソフトボール大会については「雨でできなくて残念だった」「企画自体はよかった」「雨の日は何かソフトボールにかわるものを考えた方がよい」「ソフトボールだけでなく、他のスポーツも企画してほしい」

以上のような意見がほぼ全員にみられ、行事の最後をみんなで楽しみたいという統一した感情がまとめられる。この点、大学側も雨天時対策を検討する必要があるだろう。

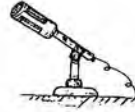
その他、新歓行事を通じての意見として以下のようなものがあがった。「新しい友人ができた」「ほとんどの人の名前と顔が一致するようになった」「大学生活の本当の意味のようなものを知るワンストップになった」「高校時代と違い、いろいろやかましく言われな

ったのは良かった」
 「準備などでムダになる時間がかかりある」
 「部屋割について検討してほしい」
 「期間が短かすぎた」
 「行きバスで人数過剰で行けなかった人がいた」
 「もう少しみんなと話し合う時間がほしかった」
 「全員参加にすべきだ」
 「学校側から、はっきりとした予定を事前に通告してほしい」
 「チューター別なり、部屋別なり、責任者およびそ

の責任をもっと明確にしてほしい」

以上のアンケート結果すべてを通して、概略的にいえることは、多少の問題点はあるにせよ、参加学生は充実した2日間をおくり、また大いに充実感を味わったということである。それは単に学部内の教官や学生と親しくなっただけのことかも知れないが、入学してまだ日も浅く雑多な不安をいだいている学生にとっては、それが最大の収穫であるといえよう。

座談会



「大学における学問研究」について

編集 部

日 時 1980年5月23日 P.m 5:00~7:00
 出席者 戸田吉信先生(地域文化コース)
 志村賢男先生(社会文化コース)
 日南田静真先生()
 樹下行三先生(情報行動科学コース)
 武森重樹先生(環境科学コース)
 荒井貞光先生(保健体育講座)
 田村一郎先生(外国語講座・広報委員長)
 学生 一年生15名
 編集委員 浜田・足立(司会)

司会 今回のテーマは、「大学における学問研究」ということなのですが、あまりに漠然としていますので、座談会の流れとして一応、(1)大学とはどういう所なのか(2)広島大学に学ぶことの意義(3)総合科学部における学問研究、という三つの柱を考えてみました。

では初めに、一年生の諸君の考えている大学とは、どういう所なのかということについて、意見をうかがいたいと思います。

一年生 ………

司会 一年生諸君からはなかなか意見が出にくいようですので、先生方から口火をきっていただきたいと思います。特に大学の教育・学問研究という点から御意見をうかがいたいのですが。

田村 今の質問は、大学の研究・教育をどう把握するのか、そして私自身が、大学で何をやっているのかのふたつの答えが要求されていると思います。まず、大学における学問研究と言った場合、学生へ教育を行なうと同時に、専門の研究活動を行なう場として大学の位置付けがあると思います。そしてこの総合科学部の創設というのは、それまでの教養部時代の一般教育に重きを置いた体制から、コース・大学院の設置などによって、専門の研究と教育の両方をやる体制が、ようやく整い始めたんじゃないかと思っています。

田村 本日は皆さん御忙しい中を、こうして座談会に出席していただき、どうもありがとうございます。今回の座談会は、「大学における学問研究」という大きなテーマなので、なかなか的がしぼりにくいかとも思いますが、学生諸君にはおおい総合科学部で自分のやりたいことに問題をひきつけて、質問・意見を出してもらい、それに対して先生方のアドバイスを受ける形にしていきたいと考えています。

ここに参加して下さった先生方は、各コース・講座のそれぞれの代表として来ていただいています。今回はコース・講座委員というよりも、個人の立場から自由に意見を述べていただきたいと思っています。

大学とはどういう所なのか？